

# 金属労協 女性参画の取り組み報告

金属労協政策企画局主任 諏訪 美千代

## ① 合同研究会「労働組合における女性参画の取り組み」

2012年6月6日、金属労協合同専門委員会で開催、三役ら48名参加

性連絡会委員ら48名が参加した。

### 国際労働運動での女性参画の取り組み

2012年6月6日、福島県いわき市で開催した金属労協合同専門委員会の終了後、「労働組合における女性参画の取り組み」をテーマに合同研究会を開いた。これには、西原議長をはじめ各種専門委員会委員長を務める5産別トップおよび各種専門委員会委員、女

性連絡会委員ら48名が参加した。

冒頭、若松英幸金属労協事務局長から、「国際労働運動では、男女共同参画はあたりまえ、マストである。」と述べた上で、①IMF（国際金属労連）が女

性参加率を20%としてきたこと、②新GUFインダストリアルは女性比率30%としていること、③金属労協の「女性参画中期目標・行動計画」では女性組合員比率に合わせた女性参画を目標としながら、IMF主催の会議には2割で対応してきたこと等、男女共同参画の取り組みを紹介した。また、6月に結成される新GUFインダストリアル4年後の大会では、代議員のうち3割を女性とすることが求められることを踏まえて、各産別の協力を要請した。

### 電機連合の男女共同参画 社会実現の歩み

電機連合の富高裕子中央執行委員からは、電機労連（現電機連合）発足以来の男女共同参画社会実現の取り組みについて報告を受けた。概要は以下のとおり。

◎電機連合では、男女雇用機会均等法、育児休業法、介護休業法などの法改正に先駆け、働き続けるための環境整備や機会均等の推進、さらには男女間格差の積極的解消に取り組んできた

経過と、「女性政策」から「男女平等政策」、さらには「男女共同参画社会実現」へと取り組みを発展させてきた。

◎電機連合の産別本部に初めて女性役員が誕生した1980年以来、女性役員がいなかったのはなく、2001年以降は女性役員を複数配置している。「女性」女性担当とせず、担当域を拡大する取り組みとして、専門委員会では、男性だけの委員会にも必ず女性が参加するようにしている。

◎電機連合全体では、女性組合員比率17〜18%に対して、まだ女性組合員比率に見合った女性役員の配置は達成できていないが、これからも着実に前進させていきたい。

最後に富高常任幹事は「女性役員は急に増えるものではない。ふさわしい人を育成して選ぶことが重要である。

合同研究会



報告する富高常任幹事



質疑応答

女性執行委員の中には、経験が少ない中で登用される人もいるが、経験不足の部分は、周りがサポートし、ふさわしい人に育てることも選出した組織の役割であり、ご協力をお願いしたい」と述べた。

## 金属労協議長まとめ

合同研究会のまとめとして、西原浩一郎議長が挨拶に立ち、「国際社会の中で、日本はジェンダー問題の取り組みが遅れている。ノルウェーでは、取締役の4割を女性とすることが義務づけ



合同研究会でまとめのコメントをする西原議長

られ、達成できなければ企業を解散しなければならぬ。当初は女性の学者等を社外取締役としてきたが、現在は経営者団体が育成機関を設置している」と北欧の先進事例を紹介した後、「労働運動によって、男女共同参画が当たり

前の社会、当たり前の状況をどう作るか。金属産業は男社会であるが、男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現する働き方についても、日本の先頭に立つべきである。難しさは承知しているが、チャレンジして結果を出すべき活動分野である」と強調した。また、この6月に結成される新GUF新GUF・インダストリアルにおける会議参加比率について言及し、「4年後のインダストリアル大会では、代議員の3割を女性とすることが義務づけられる。ポジティブ・アクションによつ

て、その基盤を作らなければならない。JCで知見を交換しながら、組合活動における男女共同参画を前進させたい」と決意を述べた。最後に、「生産性本部のワーク・ライフ・バランス推進会議の代表幹事を務めているが、ワーク・ライフ・バランス大賞の受賞は、金属産業は少ない。JCが目指す長期安定雇用、良質な雇用の実現には、男女共同参画の実現が不可欠である。JC全体の課題として取り組むことをお願いする」と挨拶を結んだ。

## ② 2012年度金属労協女性交流集會を開催 先進事例を学び、グループワークで活発に論議

2012年4月21日、都内・電機連合会館で60名の女性リーダーが参加

金属労協は、2012年4月21日(土)午前10時から午後4時半まで、都内港区にある電機連合会館会議室で、2012年度IMF・JC女性交流集會を「金属産業で女性がいきいきと働き続けるために」をテーマに開催した。

3回目となる同女性交流集會には加盟産別・単組から約60名の女性リーダーが参加、「職場におけるポジティブ・アクション」、「ワーク・ライフ・バランス」、「組合活動への女性参画」の3つの先進事例についてパネル討論方式

で紹介を受けた後、11グループに分かれ、事例報告の3つのテーマを中心に活発に議論があった。その成果をグループワーク報告で披露し合った。

グループワークにも一緒に参加した西原金属労協議長がコメントに立ち、「皆で活動の前進を図りたい。皆さんの本日の女性交流集會での意見、思いを断ち切れさせないことを約束する」と述べた。

続いて西野ゆかり金属労協常任幹事(基幹労連中央執行委員)が全体総括を行い、「今回の女性交流集會の大きな特

徴点は、組合活動に焦点が当たり、組合活動を自分達に変えていこうという機運が高まってきたことだ。自分達の意識を前向きにすれば変えることができる。ここに参加した私たち自身がロール・モデルになろうという意見を強く感じた」「金属労協の政策にも、これまで同女性交流集會の意見が活かされ、女性にかかわる政策が取り上げられている。引き続き発信してほしい。今日の場を皆さんの活動にも活かしていただきたい」等と述べた。



グループワーク

↓詳細報告は、金属労協政策レポート「2012年度女性交流集會」特集号(2012年8月末発行)を参照下さい。